

Q11 震災伝承・防災教育推進のための有効な取組

- 1 危険予測、避難時間予測など体験型学習の強化
- 2 インターネットを通じた遠隔学習の充実
- 3 3.11 防災イベントの開催

- 災害の際に、自分の身を守るための適切な行動がとれる取組を望んでいることが分かった。
- 震災伝承活動のための多様な学習形態の必要性を感じていることが分かった。

Q12 よく利用されている施設

- 1 ひだまりホール
- 2 つばめの杜中央公園
- 3 中央公民館

Q12 情報収集の方法

- 1 広報「やまもと」
- 2 回覧板
- 3 町ホームページ

アンケート調査結果を受けて

《学校教育》

- 知育、徳育、体育のバランスのよい成長を図ること
- 徳育を重視し豊かな心を育むこと
- いじめ・不登校のない学校づくりを推進すること
- 自分の考えを持ち、自ら行動できる力を育むこと
- 家庭の教育力を高めること
- 学校・家庭・地域の連携・協働を図ること

《生涯学習》

- 生涯学習について多角的な視点から展開していくこと
- 子育てのしやすさを実感できるような取組や環境を整えていくこと
- 史跡の保存・活用、伝承活動への支援を継続していくこと
- 多くの人の防災意識を高めていくこと
- 様々なニーズに応えることができるよう施設設備の充実、環境整備に努めること

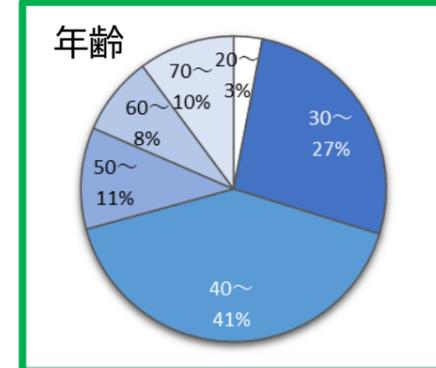
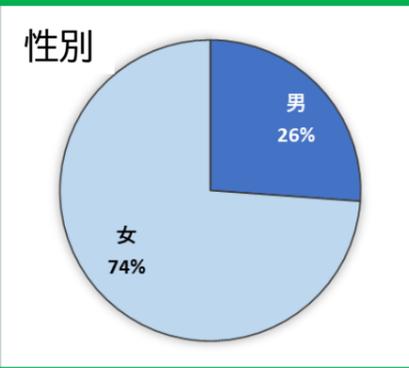


Q13 自由記述

アンケート調査結果の分析と考察 《概要版》

《調査の目的》 第2期山元町教育振興基本計画の策定に当たり、これまでの計画を振り返るとともに、町民の学校教育や生涯学習に関する意識・考えをアンケート形式により調査することで、目指すべき姿や取り組むべき施策の方向性などを明確にし、計画に反映させることを目的とする。

回答者について



- 1,409 人にアンケートを配付し、1,312 人から回答を得た。
- 回答者の74%が女性で、30・40代が全体の68%を占めた。
- 概ねすべての年代から回答を得ることができた。

アンケート調査結果の分析と考察について

Q1 どのような子供に育ってほしいか？

- 1 思いやりの心を持つ子供
- 2 心身ともに健やかな子供
- 3 自ら考え行動する子供

- 知・徳・体のバランスのよい成長を願っていることが分かった。
- 心の成長を第一に考えている方が多いことが分かった。

Q2 どのような力を身に付けてほしいか？

- 1 思いやりや優しい心など豊かな人間性を身に付けてほしい
- 2 自ら考え、判断し表現する力を身に付けてほしい
- 3 人と協調しよりよい人間関係を築いていける社会性を身に付けてほしい

- Q1の結果のとおり、徳育「豊かな人間性」が一番多かった。
- いじめ、不登校を防ぐ、よりよい人間関係も多く選ばれた。

Q3 重点的に取り組むべき内容

- 1 決まりやルールを守ろうとする意識や豊かな心を養うこと
- 2 学習意欲を高め学力を伸ばすこと
- 3 いじめや不登校のない学校づくりをすすめること

- 「豊かな心」と「学力」が重視された。
- いじめ、不登校のない学校づくりのための子供たちの心の醸成を図ることが大切であると考えている方が多いことが分かった。

Q4 幼児期の教育で大切にすべきこと

- 1 自分の気持ちを言葉で伝え、相手の気持ちに気付くこと
- 2 規則正しい生活リズムを身に付けること
- 3 友だちや身近な人と親しみ、関わること

- 友達関係をよりよいものにする上で、相手の気持ちが分かり、自分の気持ちを伝えることが大切だと考えていることが分かった。
- 生活リズムを整えるには、家庭の教育力が大切であると考えていることが分かった。

Q7 生涯スポーツの活動の充実に向けて重要なこと

- 1 スポーツを行う機会や環境
- 2 スポーツ施設や器具の充実
- 3 健康づくりに重点を置いたスポーツ教室や講座

- スポーツを行う機会や環境が一番多かった。コロナによる長い自粛期間が関係していると思われる。
- 「施設や器具の充実」は地震被害のために体育施設等が利用できないことが理由として考えられる。

Q8 地域・学校の協力・連携に重要なこと

- 1 地域と学校が協力・連携して行う活動の雰囲気づくり
- 2 地域と学校が一緒に行う活動
- 3 地域と学校が協力・連携して行う活動にかかわる情報発信

- 地域と学校がより協力・連携を強めていくこと、その取組を多くの人に知ってもらい関わってもらうことが大切であると考えていることが分かった。

Q5 地域で取り組むべきこと

- 1 地域の子供たちへの挨拶や声かけなどを日常的に行う
- 2 大人自身のマナーやモラルを向上させる
- 3 地域全体で子供を育てていこうという共通の意識を住民が持つ

- 上記の3項目が突出して多かった。
- 上記の3項目が多いのは、日常的に子供と関わり、地域をあげて子供たちを育てていこうとする意識の表れであると考えられる。

Q6 生涯学習・文化学術の推進について重要なこと

- 1 学習活動を還元できる機会や環境
- 2 イベントや教室の情報提供
- 3 ・町民が主体的に取り組む学習活動
・家庭、地域における教育力

- 身に付けたことを誰かのために生かしたり、発表したりする環境や企画を望んでいることが分かった。
- イベントの情報提供の在り方や工夫によって、生涯学習の広がりが期待できることが分かった。

Q9 家庭教育の充実のために支援すべきこと

- 1 子育てに伴う経済的な負担軽減
- 2 子供の居場所づくり
- 3 イベントなど親子で触れ合う機会

- 経済的負担軽減を望む声の子育て世代の親から多く寄せられた。
- 子供の居場所づくりとして、施設設備の充実に加え、放課後に安全に過ごせる環境を求めていることが分かった。

Q10 町の歴史・文化について知りたいこと

- 1 過去の自然災害(津波など)
- 2 町内の神社に伝わる神楽などの伝統芸能
- 3 町内の民俗(身近な昔の暮らし、民間信仰など)

- 過去の災害を分析し、今後の減災に生かしていこうという防災意識の高さが鮮明になった。
- 伝統芸能、民俗的な民間伝承等に興味を持っている人が多いことが分かった。